

第



実用新案登録願

(2) 後記号なし

昭和 52 年 9 月 2 日 適

特許庁長官 熊谷善二 殿

1. 考案の名称

別冊用保冷箱

2. 考案者

住所 東京都東久留米市前沢3丁目14番16号
氏名 藤原正徳

3. 実用新案登録出願人

住所 東京都東久留米市前沢3丁目14番16号
氏名 ダイワ精工株式会社
代表者 杉本展夫

4. 代理人

住所 東京都新宿区新宿1丁目29番5号
氏名 (6947)弁理士 横田実久

5. 添付書類の目録

(1) 明細書 1通
(3) 願書副本 1通

(2) 図面 1通
(4) 委任状等 1通
(同時出願実願書号
添付のもの使用)

52 11835

54-44455

明 細 書

1. 考案の名称 携帯用保冷箱

2. 実用新案登録請求の範囲

1. 保冷箱本体の上部に着脱自在に嵌着した中箱に小物入れ箱を重ね載置すると共に中箱と小物入れ箱の両側面に平行に軸着したフレームで小物入れ箱を多段状に引出自在に形成した携帯用保冷箱。

2. フレームの中箱及び小物入れ箱に対する軸着部を夫々中箱及び小物入れ箱に着脱自在に嵌装した実用新案登録請求の範囲第1項記載の携帯用保冷箱。

3. 中箱の一端に投入孔を形成した実用新案登録請求の範囲第1項記載の携帯用保冷箱。

3. 考案の詳細な説明

魚釣用保冷箱やレジャー用保冷箱に中箱と小物入れを設けることは実公昭42-18999号公

報や実公昭47-41353号公報で見られるように既に知られているが、これらのものは中箱や各小物入れに収容されているものを同時に使用する場合には各小物入れを保冷箱以外の地面等に夫々別個に載置しなければならず、取扱及び操作が極めて不便面倒である。

例えば魚釣操作時にみられる如く釣針、簪、浮子、餌等を同時に必要とする場合に夫々の収容されている小物入れを岩場その他の載置しづらい場所においたため誤つてひっくり返してしまう等の失敗を犯すことは良く経験するところであり、レジャー用保冷箱において中箱及び小物入れに夫々収容されているフォーク、ナイフ、その他のレジャー用具を同時に使用する場合も同様である。

本考案は携帯用保冷箱におけるこのような欠陥を改善するようにしたもので、保冷箱本体の上部に着脱自在に嵌着した中箱に小物入れ箱を重合載

置すると共に中箱と小物入れ箱の両側面に平行に軸着したフレームで小物入れ箱を多段状に引出自在に形成したことを要旨とするものである。

本考案の実施例を図面について説明すると、断熱性材料で形成されかつ蓋板(1)を装着した保冷箱本体(2)の上部には一側部に投入孔(3)を有する中箱(4)が着脱自在に嵌着されると共に前記投入孔(3)には中蓋兼用の小箱(5)が嵌合されている。

また中箱(4)の物入れ収容部の上部には適数の小物入れ箱(6)(7)が順次重合載置されると共にこれら中箱(4)の物入れ収容部及び小物入れ箱(6)(7)の両側面には夫々リベット(8)を介してフレーム(9)(10)(11)が平行状に軸着され、各フレームを起立回動してストッパ(12)に係止することにより小物入れ箱(6)(7)を多段状に引出せるように構成されている。

しかしてリベット(8)は中箱(4)及び小物入れ箱(6)(7)に直接軸着しても良いが、リベット(8)を両端に

係合線1313を有する駒片14に軸着し、この駒片14を夫々中箱(4)及び小物入れ箱(6)(7)に形成した端部15に着脱自在に嵌着するのが好適であり、また小物入れ箱の数及びストッパーの位置等は上記実施例に限定されるものではない。

本考案実施例は上記のように構成されているので小物入れ箱(7)を左方に引出すとフレーム(9)(10)(11)は起立回動してストッパー12に係止され中箱(5)及び小物入れ箱(6)(7)は多段状に引出されその上面が全開状態となり収容物の取出しができるものであり、小物入れ箱(7)を右方に押戻すと重合状態に折畳まれるものである。

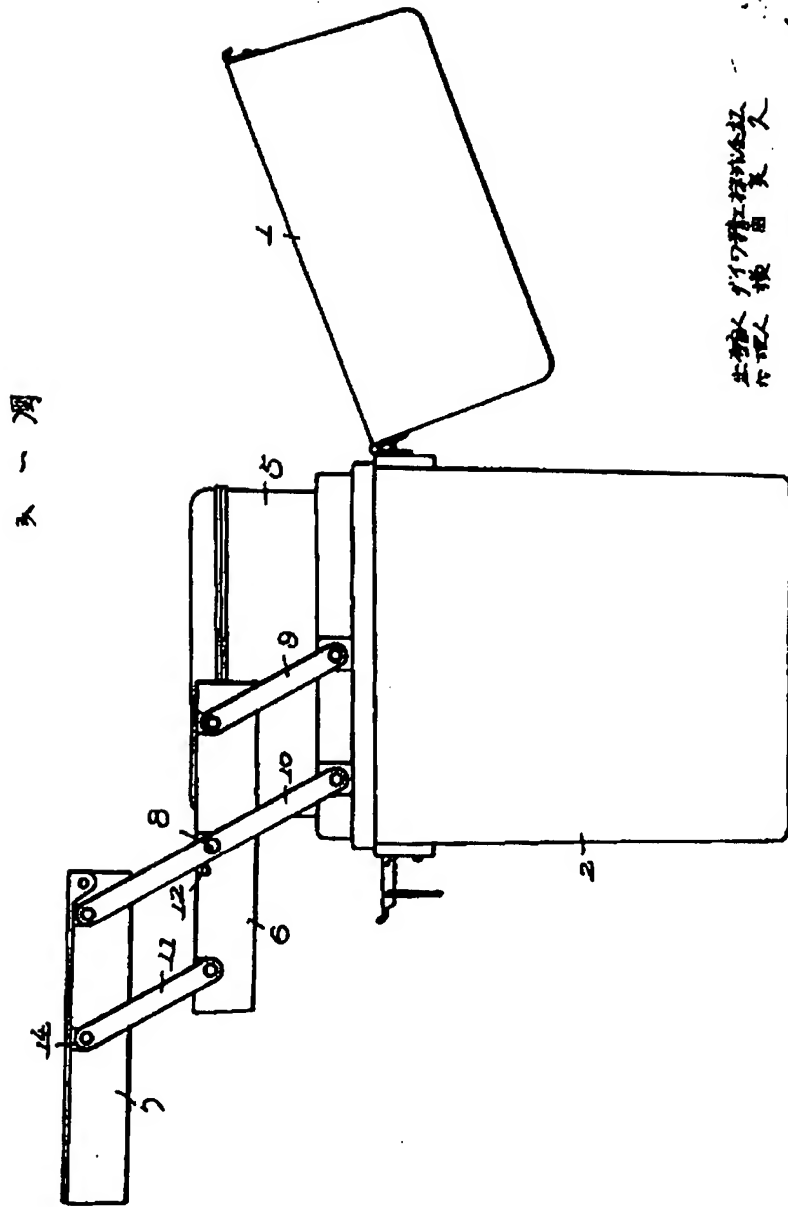
本考案は保冷箱本体の上部に着脱自在に嵌着した中箱に小物入れ箱を重合載置すると共に特に中箱と小物入れ箱の両側面に回動自在に軸着した平行状のフレームの起立回動作用により小物入れ箱を多段状に引出して中箱及び小物入れ箱を保冷箱

本体から分離しないで全開状態に保持するようにしたので、従来のような各小物入れ箱をその都度他所に載置したりする手間や、載置した小物入れ箱を誤つてひっくり返す等の恐れがなく、各箱内に収容されている品物を同時に取出し使用できると共にその操作も極めて簡易迅速にできる等携帯用保冷箱の使用価値を一層向上できる優れた特徴と実用性を有するものである。

4. 図面の簡単な説明

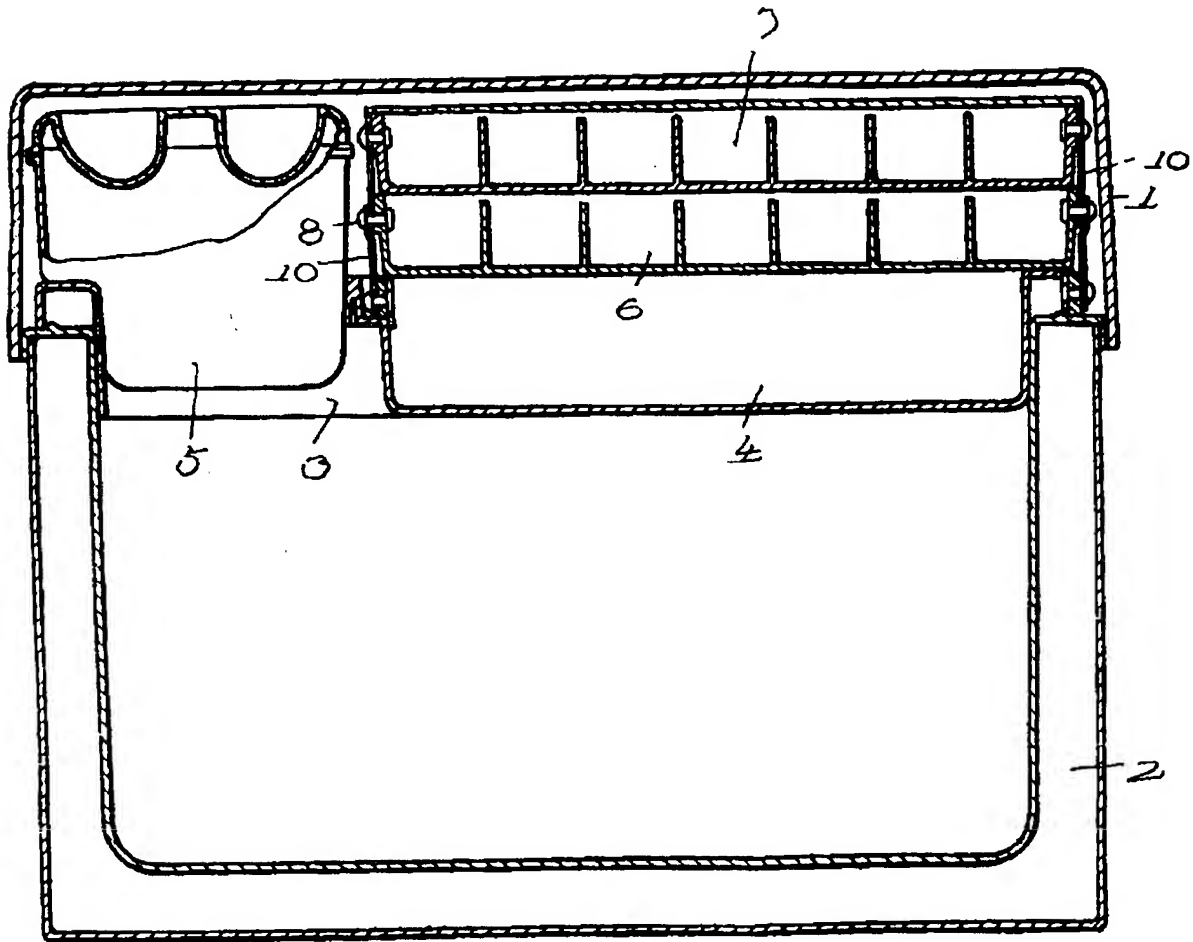
第1図は本考案の側面図、第2図同一部切欠正面図、第3図は同一部切欠側面図、第4図は本考案要部の平面図、第5図は同縦断正面図、第6図は同斜面図である。

(2)…保冷箱本体、(3)…投入孔、(4)…中箱、(6)(7)…小物入れ箱、(9)(10)(11)…フレーム、(12)…係合線、(14)…駒片、(15)…蟻溝。



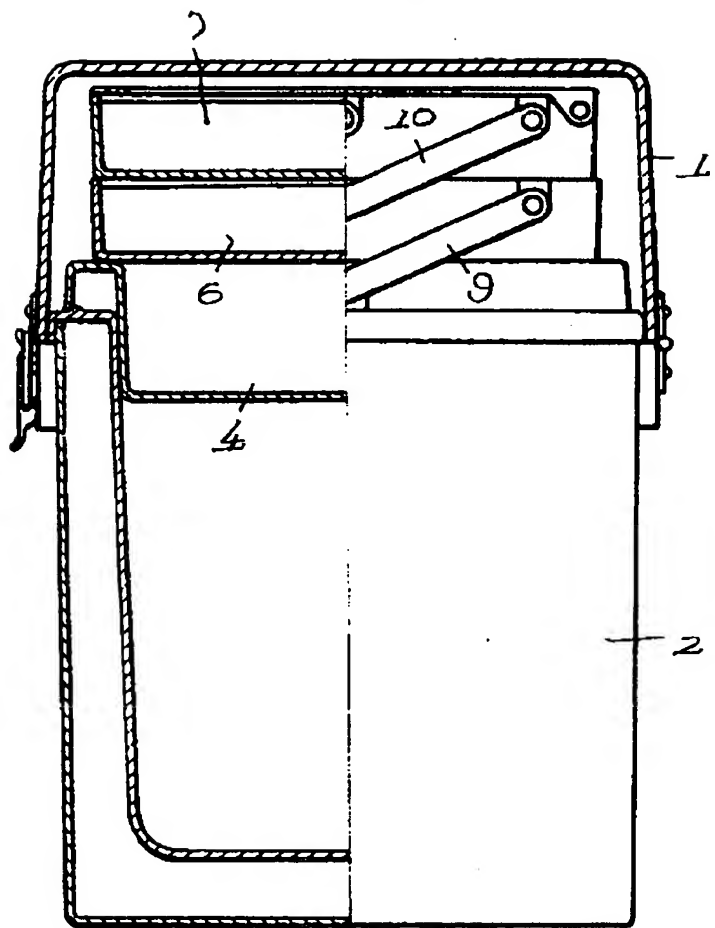
出資人 久米田工業株式会社

入 = 隅

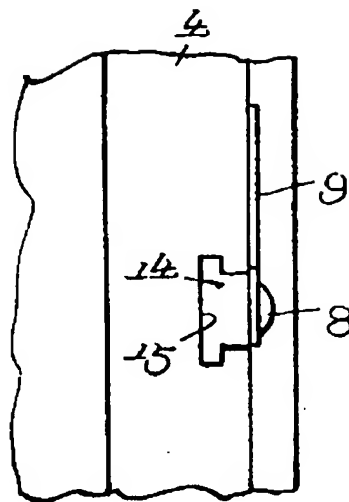


生産人 ダイワ精工株式会社
代理人 横田 美久 印

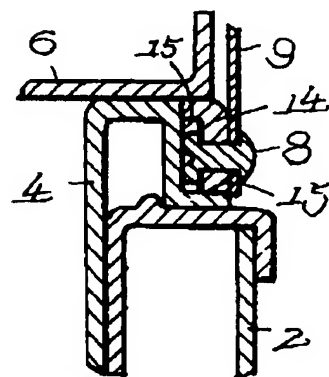
図三



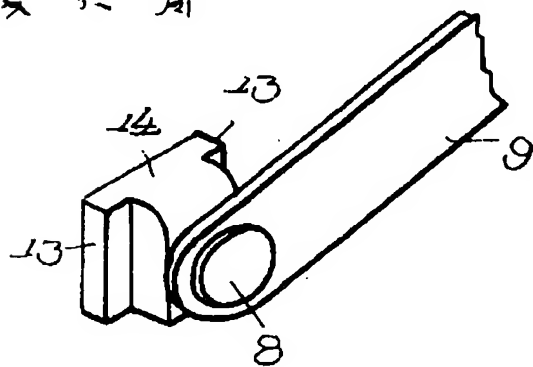
図四



図五



図六



出願人 株式会社 大井精工
代理人 横田 美久